

大学教育開発 センター通信

2009年度
第2号
通巻第22号



CONTENTS

【特集】

指定研究プロジェクト 進捗状況紹介

「龍谷大学におけるキャリア教育」…………… 2

代表者 藤田 誠久

「教員評価のあり方について」

代表者 加藤 正浩

「FD と SD の支援と開発

—教職協働モデル、プログラムの開発—

代表者 林 久夫

「学習意欲喚起や動機付けへの提言」

代表者 吉川 悟

2009 年度指定研究プロジェクト一覧 …… 4

特色ある教育取組紹介 …… 5

「新任教育職員対象『FD サロン』開催記録」

参加者の声 …… 6

大塩まゆみ（社会学部教授） 滝内 大三（文学部教授）

富崎 欣也（理工学部准教授） 那須 英勝（文学部教授）

研修参加記（全学教学会議第 2 回研修会）…………… 8

「CM といってもコマーシャルではありません、が……」

安藤 徹（文学部准教授）

「『三つの方針』に関する研修会に参加して」

橋口 豊（法学部教授）

「第二回研修会（ワークショップ）に参加して」

藤原 学（理工学部教授）

FD 活動紹介

「短期大学部における FD 活動の紹介」…………… 10

阪口 春彦（短期大学部 FD 委員会副委員長）

2010 年度

自己応募研究プロジェクト募集要領…………… 11

新着図書紹介 …… 12

第 5 回龍谷大学 FD フォーラム案内…………… 12

特集

指定研究プロジェクト 進捗状況紹介



2009 年度 大学指定研究プロジェクト「龍谷大学におけるキャリア教育」 中間報告

代表者：藤田 誠久（経営学部教授）

本プロジェクトの今年度の課題は、パイロット授業を開講するなどして自校（史）教育の有効性を検証するとともに、具体的なカリキュラム内容の検討など自校（史）教育の実施に向けた課題を検証することにある。

本年度の研究会では、自校教育の目的として「自分の大学をさまざまな側面から知ることによって自らの居場所を確認でき、大学における自分の存在意義を再確認する」という認識を共有化したうえで、建学の精神の涵養に関して、「仏教の思想」がアカデミックな側面から、自校（史）教育が大学の現実の側面から補完関係をもつ必要性を議論している。さらには、具体的なカリキュラム内容として、創設者など人物的見地、創設から現代に至る歴史的見地、地域との連携など地理的見地など自学に関する内容をどのような観点から構成するかを検討を行ないつつ

ある。

課題としては、理念（「仏教の思想」）と現実（自校教育）が相互の補完しあう形になるためには何が必要かを検討し、授業内容の構築と実施に当たっての問題点の洗い出しなど、授業実施に向けた課題整理を行なうことにある。

今後は、自校史の公開授業を開催し、学生の自校史に対するデータを収集するとともに、他大学の自校（史）教育のシラバス内容等の分析等を行ない、具体的な自校（史）のカリキュラム内容の提示できるように研究会で検討を行なう。また先述の観点から、「仏教の思想」の担当者との意見交換を行なう場を設定する、などを予定している。

「教員評価のあり方について」

代表者：加藤 正浩（経営学部教授）

本年度において当研究会は、月に一度のペースで研究会を実施してきました。昨年度は、「教員評価」の前提となる基礎的な理念について研究し、また、「教員評価」に対する教育職員、事務職員の意識についてアンケートによる調査を行いました。今年度はそれらをふまえて、本学で現実的に行いうる「教員評価」について議論しています。

とくに、本学における教員評価制度の名称、教員評価の意義（どういうことをすることを教員評価というか）、教員評価を実施する目的、教員評価を行うことによって得られる副次的効果、教員評価を行うための手続・方法・内容、教員評価を行うための組織的仕組・体制、教員評価の結果の公表の内容と方法といった側面から研究を行っています。

「教員評価」については、研究会メンバーが機会あるごとに耳にする声、あるいは実施したアンケートへの反応や回答者（教員）の意見から見ても、慎重な検討を要望する声が多く、現実的には時間をかけた議論が必要だと思われます。だからといって長年にわたり先送りするのでは、第三者評価が行われたときに「教員評価」が行われていないことが指摘されることになるのは必至です。来年度には全学的に一定の「教員評価」の方法を導き出す必要があると考えます。

まだ検討途中なので議論の詳細な内容は明らかにできませんが、本研究会では、近い将来において実現可能なものとして、第三者評価においては「教員評価」と見なされうる、教員の「自己点検」が適当ではないかと検討しています。



FD と SD の支援と開発 —教職協働モデル、プログラムの開発—

代表者：林 久夫（理工学部教授）

本プロジェクトは、教員と事務職員が一体となって学生を支援するための協働モデルやプログラムを開発することを目標に発足しました。

幸い本学では、事務職員向けの研修プログラムは比較的整っており、個人の資質や組織の機能の向上のため一定の役割を果たしています。一方、教員向けの研修は、半日程度の新任教員向けの研修会が開催されていますが、体系的な FD 研修の役割を果たすまでには至っていません。そこで、本プロジェクトでは、この新任教員向けの研修プログラムの充実を当面の目標とすることになりました。

本年度前期においては、まず、①「新任教員研修の意義」について議論し、研修が教員間ネットワーク構築の一助となること、ならびに教員個人のキャリア開発の一

環としての役割を果たすことの必要性が指摘されました。次に、②「FD サロン」として、今年度の新任教員研修会のフォローアップを行い、建設的なご意見を伺いました。また、③「研修プログラムの枠組み」について議論し、基本枠組みとして、大学に関する基礎知識、授業デザイン、教育の実践、教育評価とフィードバック、自己キャリア開発などが提案されました。さらに、④京都 FD 開発推進センターで開発中の新任教員研修プログラムの活用も検討されました。後期にはこれらの議論をより深めるため、外部の研修会等への参加を計画しています。

「学習意欲喚起や動機付けへの提言」

代表者：吉川 悟（文学部教授）

今年度より、龍谷大学の学士教育の実態調査を行い、学生の基礎学力不足や学習意欲の低下に大学としてどのようなアプローチや支援を行えば、学習意欲が喚起され、学習への動機付けを高めることができるのかを検討することを目的とした研究です。

まず、学士課程教育の充実のためには、現状の実態調査が必要です。今年度は、1 年生を対象として、山田礼子氏（同志社大学）が実施している全国大学調査（JCSS [日本版大学生調査]）を 9 月に行い、データ分析を行っている段階です。今後は、このデータを基本として、この学生が学士課程教育を受けた 4 年生時にその比較を行うという縦断研究を予定しています。

また、学内でこれまでに行われてきた各種の学生調査の結果などを検討し、学生の側から見た現在の学士教育

の効果についての検討を行う予定です。現在の龍谷大学の学士教育について学生からの視点を取り上げることによって、今後学生をカテゴリーごとに分析・分類することにより、タイプごとの学生に必要な対策を検討したいと考えています。

今後も学習指導要領の改訂後の教育を受けた学生の入学が見込まれ、適切な学生支援の指針を模索する基礎データとなることを目指しています。

2009 年度指定研究プロジェクト一覧

「龍谷大学におけるキャリア教育」

代 表 者：
藤田 誠久（経営学部教授）

共同研究者：
浅田 正博（文学部教授）
内藤 知康（文学部教授）
谷 直樹（経済学部准教授）
窪田 和美（短期大学部教授）
飯吉 弘子（大阪市立大学教育研究センター准教授）
寺本 憲夫（元内部監査室長）
橋本 正義（キャリア開発部部長）
伊勢戸 康（教学企画部次長）
辻 篤雄（キャリア開発部課長）
内藤 多恵（REC 事務部課長）
中園 満（龍谷ミュージアム開設準備室課員）

〈概 要〉各大学で「キャリア」をキーワードに学生に対するキャリア教育・支援が積極的に展開されてきているが、その内容についてはまだ確立したものがないというのが現状であると思われる。本学においても教学との連携を図りながら、体系的なキャリア教育支援が展開されてきており、その必要性・重要性は徐々にではあるが、全学的に認められつつある。

こうした中であって本学で展開されるキャリア教育は、普段からの教育を通じて行なわれるのもではあるが、本学の特徴を活かした独自のものであることも肝要であると考えられる。

本研究プロジェクトでは、本学のキャリア教育のあり方について、「建学の精神」や自校史プログラムとキャリア教育の視点から研究する。具体的には、どのような方法を用いて建学の精神の浸透を図り、さらには本学の歴史を通じた自校史プログラムの構築がキャリア教育に有効であるかどうかを分析・検証する。加えて、こうしたことを可能にする仕組みについても検討を行なう。

「教員評価のあり方について」

代 表 者：
加藤 正浩（経営学部教授）

共同研究者：
小島 勝（文学部教授）
村澤真保呂（社会学部准教授）
ケント・ポーリン（国際文化学部教授）

〈概 要〉大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道德的および応用的能力を展開させることを目的とし、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する使命を課されているが、そのようななか、社会からは「教員評価」ということが求められ、回避することができない状況にある。

しかしながら、教員評価の目的、意義などというものに関しては、大学や社会において十分なコンセンサスの存在するものではなく、あいまいさが払拭できず、このまま教員評価が実施されるとなると、教員自身にとっても不本意な形で行われることが危惧される。

そこで、この教員評価について、目的、意義、方法、効果、大学教育、大学運営のなかにおける位置づけについて検討を行い、大学で実現可能な教員評価のあり方について研究する。

「学生の自習を促進するための方策の研究」

代 表 者：
岩本 太郎（理工学部教授）

共同研究者：
河野 淳子（文学部講師）
田口 律男（経済学部教授）
辻 哲也（理工学部教授）
橋口 豊（法学部教授）
小室 昌志（法学部教務課課長）

〈概 要〉学生に自主的な学習を促すことは、教育の質の保証の議論を待つまでもなく、永久の課題として存在する。中央教育審議会の答申にも教育の質の向上の中で学生学習時間の確保が取り上げられ、また大学評価が重みを増す中、学生が自主的に学習することを促す具体的方策を検討するべき状況にある。教員としても、少なくとも学生が自習するために必要な条件は整える必要がある。本研究では学内外の調査や、経験を踏まえた討論によって、学生の自習を促す方策を研究し、各学部において実施できるような具体策を提示することを目的とする。

「FD と SD の支援と開発 ―教職協働モデル、プログラムの開発―」

代 表 者：
林 久夫（理工学部教授）

共同研究者：
津島 昌弘（社会学部准教授）
西村 豊（研究部次長）
松原 元洋（人事課課員）

〈概 要〉教育の質保証に向けた教育改善のために、これまで以上に教職員の職能開発が求められている。教員と職員がどのように協働すれば、本学の教育の質保証や教育改善に資するのか。職員には個々人の資質向上を目的とした研修体系が構築されているが、今後は大学全体を俯瞰したSD活動の視点も重要になってきている。教育の質の向上に向けた取組として、FD活動とSD活動がリンクし、教職協働によってさらなる教育、研究、地域貢献、大学管理運営等の支援・推進が図られるよう、具体的な取組や手法など、本学にふさわしい教職協働モデル、FD・SDプログラム等の開発について多面的に研究を行う。

「学習意欲喚起や動機付けへの提言」

代 表 者：
吉川 悟（文学部教授）

共同研究者：
出羽 孝行（文学部講師）
村穂 幸司（経済学部教務課課長）
北條 英明（国際文化学部教務課課長）

〈概 要〉学習指導要領の改訂後、学生の基礎学力不足や学習意欲の低下が問題となっている。それらの学生に対し、大学としてどのようにアプローチや支援を行えば、学習意欲が喚起され、学習への動機付けを行うことができるのか。

このような現状において、龍谷大学における学士課程教育の充実のためには、まず初等・中等教育での現状の実態調査（1年生対象）が不可欠であり、同時に、龍谷大学の学士課程教育を受けた学生（三、四年生対象）の意識調査や実態調査を行うことで、本学に必要な教学面での方策について検討・研究を行う。

特色ある 取組紹介

龍谷大学では建学の精神にもとづき本学の教育目標を実現するために様々な特色ある教育をおこなうとともに、積極的な教育改革に取り組んでいます。2009 年度 GP に採択された取組内容をご紹介します。

【GP とは？】 文部科学省が選定する教育プログラム。各大学・短期大学・高等専門学校等（以下「大学等」とします。）が実施する教育改革の取組の中から、優れた取組を選び、支援するとともに、その取組について広く社会に情報提供を行うことにより、他の大学等が選ばれた取組を参考にしながら、教育改革に取り組むことを促進し、大学教育改革をすすめていく。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼んでおり、GP とはこの頭文字をとった総称。



「平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業」

【テーマ B】 学生支援推進プログラム

取組名称

「face to face 面談強化による 就活リスタート支援」

取 組：キャリア開発部

取組期間：平成 21 年度～平成 23 年度

概 要：

本取組は、企業の採用活動ピーク時に内定を得られなかった学生のリスタートを可能にし、就職未決定者をゼロにする取組である。

稼働実績のある Web 履修登録（全学生対応）と連動した「就活状況把握システム」を構築し、活動の結果が出始める 4 月時の全卒業年次生のデータ（不安要素と選考通過状況（弱点・課題）、応募企業状況（企業選びの志向性））を瞬時に集積する。

データから学生の特徴を把握し、窓口に来ることに抵抗を感じる学生には、メール・電話によるアプローチを継続的に行い、信頼関係を築き、最終的には全対象学生と face to face の面談を実施する。4 月時の弱点・課題データと面談の積み重ねにより課題克服に向けた主体的な行動を促す。学生の志向データに基づく求人情報を提供し、学生満足度の高いマッチングを実現する。

たとえ企業の採用時期を逸しても、学生が再び目標を掲げ、主体的に将来を切り開けるようリスタートを支援する。



「平成 21 年度大学教育充実のための
戦略的大学連携支援プログラム」

取組名称

「多面的な国際交流の充実と 高等教育の質向上に向けた 国際連携プログラム開発」

取 組：国際部

代表校名：龍谷大学

連携校名：京都教育大学、京都府立大学、京都外国語大学、京都学園大学、京都光華女子大学、京都精華大学、京都ノートルダム女子大学、明治国際医療大学、池坊短期大学、京都外国語短期大学、京都光華女子大学短期大学部、龍谷大学短期大学部

関係大学コンソーシアム：

財団法人 大学コンソーシアム京都

関係自治体・経済団体等名：京都市

概 要：

現行の個別大学間の交換留学協定制度を、複数大学対複数大学間における協定に拡大し、教員や職員の研修・交流等を含んだ広範囲な交流連携内容に充実することにより、京都地域の高等教育の国際競争力の向上や教育の質の保証と向上を目指す。

具体的には、複数大学間の留学制度として、短期・中期・長期等の様々な留学プログラムの開発を行うと同時に多くの留学生を受け入れることにより、学生の異文化理解と国際的視野の醸成を促進する。また、教職員の研修・交流プログラムを開発すると同時に、教育に関する評価のあり方等を調査・研究することにより、教職員の職能開発に資するとともに意識改革を促し、日本の大学の国際的評価の向上を図ることにより、優秀な留学生の獲得を目指す。更に、将来的には国境を越えた単位互換制度の創設やダブル・ディグリー制度導入促進を目指し、教育の質やその提供する内容を国際的水準に合致させることを目指す。

「新任教育職員対象 『FD サロン』 開催記録」

大学教育開発センターでは、教員個々のFDを支援するとともに、FDの取り組み成果が実質的に教育改善に結実するような事業を展開しています。また、その一環として、FDに係る教職員相互の交流をはかり、情報や教学資産の共有化を図ることを目的として、FDサロンを開催しています。

2009年度第3回FDサロンでは、龍谷大学に今年度着任された教育職員の方々を対象に、本学の教育・研究、及びFD活動等についてご不明な点、ご要望をお聞きすると同時に、新任の先生方の親睦を図るという趣旨で、ランチミーティング形式のFDサロンを開催しました。

日時

・第1回(瀬田学舎) 2009年9月16日(水) 12:35~13:25 (50分)

・第2回(深草学舎) 2009年9月17日(木) 12:20~13:10 (50分)

場所

・第1回 瀬田学舎 智光館 201 共同研究室

・第2回 深草学舎 紫英館 2階 第2共同研究室

参加対象

今年度着任された教育職員

FDサロンに参加して

社会学部教授 大塩まゆみ

新任教員に向け、昼食付きのFDサロンが9月16日(水)にありました。参加し、とても良かったです。

学生からの授業評価の結果を上げるために良い授業をしようという動機付けが私にはまったく働かず、学生に愛情がわからないと、授業への意欲が出ません。しかも、学生への愛情が芽生えるには、大学の新任教員受け入れ態勢が良く、教員生活の環境が整うことが前提として必要です。今回のFDサロンは、この大学で適応していくため自らの心構えをつくるのに、役立ったように思います。

私は、声量がなくマイクを使っても声が聞こえないと言われる、腕力が乏しく板書の文字が薄いと言われるので、視聴覚教材の活用により学生の関心を喚起したいと考えています。しかし、本学は、残念ながら、ゼミ用教室でビデオやDVD・OHCを使えないので、設備や新任教員の受け入れ態勢の充実等を本サロンで要望しました。大学教育開発センター長も事務職員の方々が理解力豊富で寛容だったので、普段なら言いにくい意見もお伝えすることができました。参加者が少人数だったこともあって話しやすく、他学部の先生方とも意見交換でき、満足しています。最後に このような場を設けてくださったことに心から感謝申し上げます。

文学部教授 滝内 大三

30年間も教員生活を送りましたが、年々授業が下手になっていくことを自覚し、「FDサロン」に参加しました。新任教員として、研修内容に気付いた点があれば発言するようにとのことで、みなさん共通していたのは、短い時間に盛りだくさんの内容で消化不良だったとの思いでした。文書の配布やレクチャーだけでは聞き流してしまいがちになります。文学部教員の場合、できれば大宮学舎で教室の位置や教材作成の場所、情報機器の設置状況や利用法、本学学生の傾向と注意点など、できるだけ具体的に指導してもらえるとありがたいです。

大学によって情報処理システムに違いがあるので、最初の1年間は授業でパソコンを使った授業をする場合、ティーチング・アシスタントを付けてサポートしてもらえば、まごつくこともなくなるでしょう。また卒論指導や大学院生・社会人ゼミなど、研究室を使用して指導することが多いので、その点の配慮もあればベストだと思います。私は特任教員で教授会に出ることもないので、こうした場で先生方のご意見を伺い大変参考になりました。





理工学部准教授 富崎 欣也

本年4月に理工学部物質化学科に着任しました富崎です。今回初めてFDサロンに参加しました。今回の会合では、新任教員による着任時の手続きや龍谷大学での講義中の学生の私語について話題提供がありました。私の着任時の手続き等は比較的円滑に進んだと思いますが、他学科では3月末の荷物搬入時にも使用予定の部屋が準備されていなかったそうです。また、パソコンのレンタルが4月中旬以降となり、授業準備に手間取ったという方もいらっしゃいました。特に新任教員については、円滑に授業準備を進めるためにも、入室時点でパソコンが設置されていることが望ましいと思います。

授業中の私語については、多くの先生は酷いと感じていらっしゃるようです。私も例外ではなく、特に授業開始直後に私語が多いなと思っていました。しかし、板書を始めるとかなり静かになり、ヒソヒソ声程度になりました。それでもヒソヒソ声は止みません。そして気づきました。ヒソヒソ声は学生自身が黒板に書かれた文字あるいは内容の識別が困難なときに、近くの友達に聞いたり確認したりしている声が多数を占めるということに。試しに、「見えない人は前の席でノートを取りなさい」と

いうと、幾人かは前へと移動しヒソヒソ声は小さくなりました。他にも、いつもより板書の字を大きくしたり、丁寧に書いたりして、学生の反応を探っています。試行錯誤中です。

文学部教授 那須 英勝

新任教員対象研修に参加しました。普段は講師控え室などでも、専門の近い同僚の方とだけしか話しませんので、別の分野の先生や職員の方々と直接交流ができるFDサロンがあるのは有り難いことです。龍谷大学は教育研究環境が整い素晴らしいのですが、4月に着任してから、設備や道具の使い方を覚えるのに時間がかかりました。また、新入生からは、キャンパスの施設から履修に関することまで、様々な質問をされますので、そういう場合にも対応できるように、困った時の問い合わせ先など記した、「新任教員用のキャンパス活用マニュアル」のようなものを作成頂けたら有り難いです。



「全学教学会議第2回研修会」 開催報告

本学における「学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針」の策定に向け、各学部等における今後の検討が円滑に行われるよう、愛媛大学より小林直人先生を講師にお招きしてワークショップ形式の研修会を開催いたしました。

- 開催日時 9月18日（金）10:00-12:00、13:00-17:00
- 開催場所 龍谷大学深草学舎 21号館 402教室
- 講師 小林 直人氏（愛媛大学 教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長）



- 10:00 ～ 10:10 ご挨拶
- 10:10 ～ 10:50 全体説明
「なぜ AP/CP/DP の一貫性構築が必要なのか」
- 10:50 ～ 11:00 質疑応答
- 11:00 ～ 12:00 ワークショップ：
DP（必要なら AP も）の見直し
- 12:00 ～ 13:00 昼食
- 13:00 ～ 13:30 各教学主体から DP の見直しについて報告
- 13:30 ～ 13:40 全体説明
「カリキュラムマップの作成について」
- 13:40 ～ 15:30 ワークショップ：カリキュラムマップ（CM）
の作成
- 15:30 ～ 16:30 全体でポスターセッション
- 16:30 ～ 16:50 全体説明
「ワークショップを振り返って」
- 16:50 ～ 17:00 ご挨拶

CM といってもコマーシャルではありません、が……

“ワークショップ”と聞くとつい尻込みしてしまい、“ポリシー”などというものには縁遠く、最近はおっぱらカーナビに頼って“マップ”が読めなくなった私にとって、ディプロマ・ポリシーの策定やカリキュラム・マップ作成のためのワークショップは難関でした。結果、必要以上に身構えて参加することになったのですが、実際に作業をしてみるとわかりました。要はことばの問題なのだ、と。すでにあるものを正確に見定め、配置し直したうえで、的確かつわかりやすいことばで表現し、発信してみせること。私たちにとってCMは何よりもカリキュラム・マップのことであって、けっしてコマーシャル・メッセージではありません。しかし、あるいは……。

(文学部准教授 安藤 徹)

『三つの方針』に関する研修会に参加して

今回の研修会は、『三つの方針』の中の、特にCPとDPに関するものでした。ワークショップ形式でしたので自由に議論し、また、他の教学主体のCPとDP、そしてカリキュラムマップを見せていただくことができて大変参考になりました。講師の小林直人先生は、AP・CP・DPは受験生や教職員のためのものでもあるが、やはり最終的には学生のためのものであると指摘されました。このご指摘は、『三つの方針』を考えていく上で重要な点だと思いました。

(法学部教授 橋口 豊)

第二回研修会（ワークショップ）に参加して

9月18日（金）に深草学舎にて開催された教学企画部主催の第二回研修会に、理工学部から松本先生・篠原教務課長・鈴木教務課員とともに参加しました。最初に、全学的にFD活動が非常に活発であり、AP・CP・DPの作成についてはかなり以前より取り組んでおられる愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長の小林直人先生より、簡単な背景や用語の説明と愛媛大学の実例を紹介していただきました。AP・CP・DPの作成のそれぞれの段階における留意点を具体的かつ詳細に教えていただき、非常に参考になりました。それから、3時間程度かけて理工学部のDPにおける6つの観点と2学科についてのカリキュラム・マップの作成作業を行いました。理工学部については全ての学科でカリキュラムフローチャートが履修要項に記載されており、それらのカリキュラム・マップとの適合性が高くなり高いことが確認できました。専門科目間の関係性について講師の先生方より質問を受け、学生にとってもわかりにくい表記となっている部分があることが明らかとなりました。また、瀬田共通科目や他の学部のカリキュラム設計の考え方を知ることができる良い機会となり、大変有意義な一日でした。

(理工学部教授 藤原 学)



短期大学部における FD 活動の紹介

短期大学部では、次の FD 活動を行っています。

短期大学部 FD 委員会 副委員長 阪口 春彦

1 FD に関する協議等

授業・カリキュラム・各種実習等について、FD 委員会、学科会議、コース会議、専攻科会議等で協議し、協議結果を踏まえ、各担当者により改善を図っています。

2 研修会等の開催

2009 年度に開催した研修会等は次のとおりです。

- 〈第 1 回 FD 研修会〉開催日：4 月 6 日
テーマ：「ギャップ・イヤーの導入可能性について」
- 〈第 2 回 FD 研修会〉開催日：4 月 22 日
テーマ：「認定こども園制度について」
- 〈FD 報告会〉開催日：7 月 24 日
テーマ：短期大学部学科改組計画における教養福祉コース（仮称）の構想について
- 〈公開授業〉開催日：11 月 11 日
科目名：ソーシャルワーク現場実習指導Ⅰ

3 教育効果等の測定

教育上の効果と目標達成度を測定するため、①実習生および実習受け入れ先を対象とした実習に関するアンケート、②卒業年次生を対象としたカリキュラムアンケート、③卒業年次生を対象とした進路調査などを実施し、その結果を教職員と共有すること等により教育改善に活用しています。

また、卒業要件科目平均点や卒業要件科目修得単位数の人数分布の資料などを教務課で作成し、年度ごとの学業成績の推移を把握できるようにしたり、本学部における教育の中でとくに重要な位置を占める実習教育については、実習終了後に実習反省会を開催し、実習受け入れ先の職員や学生の参加も得て、対面的な意見交換を行う場を設けたりしています。

さらに、教育の結果を測定するだけではなく、入学直後にブレースメントテスト（日本語）や入学動機アンケートを実施することにより、入学生の学力や学習意欲等について把握し、学生実態に合った教育を模索するとともに、教育効果を見極める基礎データとして活用しています。

なお、全学で実施されている「学生による授業アンケート」については、アンケート結果に対する教員からのコメントを集め、学生に公表しています。

4 GP に採択された 3 つのプログラムの継続

これまでに特色 GP、現代 GP に採択された 3 つのプログラムの内容を発展させながら事業を組織的に継続しています。

5 プロジェクト・チームによる FD 活動の推進

短期大学部教職員から取り組むべきと提案された課題等についてプロジェクト・チームを発足させ、FD 活動を推進することとしています。

2010年度 自己応募研究プロジェクト募集の ご案内

大学教育開発センターでは、教育改革を推進する一環として、学内の個人又はグループに対し、教育全般、授業、教材等の研究開発を奨励し、公開に対する支援を行うことを目的とし、自己応募研究プロジェクトを実施しています。

応募資格

- 研究代表者は本学専任（特任含む）教育職員とする。
共同研究者は専任・非常勤講師を問わない。
- 本学における教育全般、授業、教材等の研究開発（FD）を行おうとする個人またはグループ。

応募条件

- 開発成果に汎用性のあること。
- 下記内容の範囲内のものであること。
- 申請額 30 万円以下であること。

〈対象内容〉

- a. 大学教育研究 大学全般に関わるもの
- b. 大学教育研究 複数学部等に関わるもの
- c. 授 業 研 究 教材に関するもの —教材作成・教材開発・テキスト作成—
- d. 授 業 研 究 手法に関するもの —実験的授業・学生討論会実施・授業法改善—

※各学部、教養教育科目、学部共通コース、教職課程等の教学責任主体に係るものについては、別途予算措置がなされているので本事業の対象とはしません。

応募締切 2009 年 12 月 11 日（金） **申込締切迫る！**

申請書提出先：大学教育開発センター（教学企画部）

申請書類

応募に必要な申請書類は、大学教育開発センターにて配布いたします。また、大学教育開発センター Web (http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/biz_content/self_2010.html) からダウンロードできます。原則として応募できるプロジェクトは 1 プロジェクトのみとします。

選考方法

12 月中旬実施予定のヒアリング（大学教育開発センター運営委員）を経て、1 月初旬開催の大学教育開発センター会議にて審議し、決定します。（ヒアリングでは、目的・内容と予算の関係等をお伺いします。）

研究発表会での報告及び報告書の提出

研究発表会を 2011 年 2 月下旬（予定）に実施し、全プロジェクトが報告することとします。また、3 月中旬までに報告書類（様式については別途指示）を提出するものとします。この報告書はセンターにて「FD・教材等研究開発報告書」として刊行し、FD に関する勉強会、研究会、交流会等で発表し、活用することがあります。

新着図書紹介

大学教育開発センターでは、センターの資料として図書を購入しています。貸し出しも行っていきますので、どうぞご利用ください。また、購入図書の希望も募っていますので、ご希望があればお知らせください。



大学生入門 知の扉をひらく! 3訂版

ISBN 978-4-7907-1394-4

著者名 高橋三郎／新田光子

出版社名 世界思想社



魅力ある授業のために 共通教育賞受賞者による教育実践集

ISBN 978-4-87259-225-2

著者名 大阪大学大学教育実践センター編

出版社名 大阪大学出版会

第5回龍谷大学FDフォーラム案内

『学士課程の体系化と教育の質保証』※参加費は無料となっております。 お気軽にご参加ください。

日時：2009年12月12日(土)
13:00～16:00

場所：龍谷大学 深草学舎 3号館 101教室

プログラム

12:30～13:00 受付開始
13:00～13:05 開会挨拶
13:05～13:10 学長挨拶

第Ⅰ部 13:10～14:10 基調講演「学士課程教育の質保証」

講師：絹川 正吉氏（国際基督教大学名誉教授・元学長、新潟大学理事）

14:10～14:50 問題提起「教育の質保証に向けた教育プログラム評価」

講師：生和 秀敏氏（財団法人大学基準協会特任研究員、広島大学名誉教授）

第Ⅱ部 15:00～16:00 シンポジウム

シンポジスト：絹川 正吉氏（国際基督教大学名誉教授・元学長、新潟大学理事）

生和 秀敏氏（財団法人大学基準協会特任研究員、広島大学名誉教授）

長田 雅子氏（株式会社進研アド Between 編集長）

西垣 泰幸氏（龍谷大学副学長・教学担当理事）

コーディネーター：松本和一郎氏（龍谷大学大学教育開発センター長）

龍谷大学大学教育開発センター HP (<https://www.ryukoku.ac.jp/rform/fd/>) の参加申込フォームより申し込みください。【申込〆切 12月9日(水)】

交通アクセス

- JR 奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分 ● 京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩3分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分

主催：龍谷大学大学教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67 TEL 075-645-2163 FAX 075-645-2190 (内線:1050/1051)

協賛：関西地区 FD 連絡協議会

E-mail dche@ad.ryukoku.ac.jp

